

第63期 報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

■株主の皆様へ



株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第63期報告書をお届けし、当期の業績および当社グループにおける取り組みにつきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長 早川 信正

基本方針

常に革新し
挑戦を続け
社会に貢献する

■事業の経過および成果のご説明

当連結会計年度における世界経済は、欧州の債務問題が欧州のみならず世界経済全体への波及を見せ、緩やかな景気回復が続いた米国においても、失業率の高止まり・原油価格の高騰などから下振れリスクが顕在化しつつあり、総じて厳しい経済環境が継続しています。

このような環境の中、情報画像関連機器事業では、年度前半に作画速度を従来比で最大約30%向上させた大判インクジェットプリンタ『VJ-1324』・『VJ-1624』を投入し、加えて後半には上位機種として更なる高速作画（『VJ-1624』比で約60%向上）を実現した『VJ-1638』を投入するなど積極的な製品展開を行い、両機種ともにサイン市場における新たな世界戦略機として『VJ（バリュージェット）シリーズ』のブランド浸透を図りました。

また、その他の事業においては、製造工程における目視検査用LEDライトテーブル『LitaVi（リタヴィ）』、スポーツサポート用品『Finoa』（フィノア）ブランドのカラーテーピング「サッカー日本代表チームバージョン」を発売するなど、ユーザーニーズに応える戦略製品の投入に努めてまいりました。

経営成績では、世界的な景気下振れ要因に加え、長引く為替の円高基調から、本格的な回復に至らない景気環境を受け、業績は伸び悩む結果となりました。

当連結会計年度の業績は、売上高204億41百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益6億53百万円（前年同期比45.6%減）となりました。経常利益においては、当連結会計年度より新たに株式会社セコニック（平成24年4月2日より株式会社セコニックホールディングスに商号変更）が持分法適用関連会社となったことに伴う投資利益を計上したこと等により、経常利益13億6百万円（前年同期比35.8%増）となりました。一方、特別損失として、開発・製造関連部門の集約に伴う特別退職金、製造中止製品のたな卸資産評価損を計上し、他に関係会社株式の評価減に伴うのれん償却等を計上したことから、当期純損失4億25百万円（前年同期は8億円の利益）となりました。

なお、当期末の配当金は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えすべく、1株当たり3円とさせていただきます。皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結決算ハイライト

○連結売上高
第63期 **20,441** 百万円

第60期 **26,338** 百万円 第61期 **21,997** 百万円 第62期 **21,920** 百万円

○連結営業利益
第63期 **653** 百万円

第60期 **951** 百万円 第61期 **354** 百万円 第62期 **1,202** 百万円

○連結経常利益
第63期 **1,306** 百万円

第60期 **1,394** 百万円 第61期 **325** 百万円 第62期 **962** 百万円

○連結当期純損益
第63期 **△425** 百万円

第60期 **604** 百万円 第61期 **217** 百万円 第62期 **800** 百万円

○連結総資産額
第63期 **27,028** 百万円

第60期 **28,301** 百万円 第61期 **28,789** 百万円 第62期 **28,462** 百万円

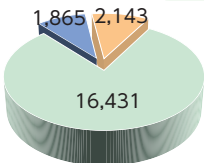
○連結純資産額
第63期 **18,601** 百万円

第60期 **18,880** 百万円 第61期 **19,018** 百万円 第62期 **19,459** 百万円

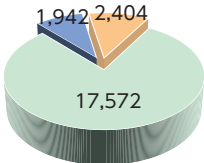
当期事業別セグメント 売上高 (百万円)

情報画像関連機器事業 情報サービス事業
不動産賃貸事業ならびにその他の事業

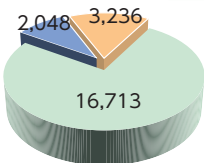
・第63期 **20,441** 百万円



・第62期 **21,920** 百万円



・第61期 **21,997** 百万円



次期の 業績予想

単位：百万円				
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結業績予想	21,000	500	500	300

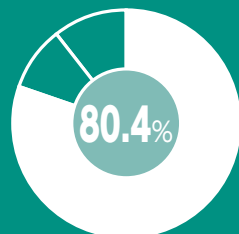
(平成24年5月15日公表値)

当社グループを取り巻く経営環境は、長引く為替の円高基調に加え、欧州債務問題が再び世界経済に対する下振れ要因として顕在化し、これまで世界経済の牽引役であった新興諸国の景気拡大も減速するなど、先行きは不透明な状況にあります。

このような環境の中、情報画像関連機器事業における大判インクジェットプリンタ『ValueJet』ブランドの市場浸透、高い技術力を活かした新たな製品の開発、その他の事業における多彩なニーズに応える製品ラインアップの拡充など、常に新しい価値を創造し顧客満足度を高めることにより、販売拡大と収益力の向上に努めてまいります。

事業セグメントの概況

情報画像関連 機器事業



売上高
16,431百万円

アジア地域においては、新興諸国の経済成長を背景として海外市場は堅調に推移したものの、国内市場では本格的な景気回復に至らず売上高85億21百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益5億45百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

北アメリカ地域においては、積極的な拠点展開・販売活動を行ったものの、長引く円高の影響により売上高22億12百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益1億3百万円（前年同期比36.3%減）となりました。

ヨーロッパ地域においては、債務問題に伴う景気の低迷と円高の影響により売上高56億98百万円（前年同期比11.7%減）、営業損失66百万円（前年同期は3億28百万円の利益）となりました。

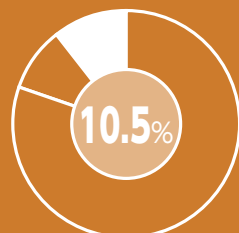
情報サービス 事業



売上高
1,865百万円

低調な経済情勢が続く中、IT投資は依然として伸び悩み、売上高18億65百万円（前年同期比4.0%減）となったものの、継続的なコスト削減効果により営業利益は改善され88百万円（前年同期比29.8%増）となりました。

不動産賃貸事業 ならびに その他の事業



売上高
2,143百万円

不動産賃貸事業においては、テナントの一部退去により、売上高5億51百万円（前年同期比29.5%減）となり、営業利益は2億86百万円（前年同期比29.6%減）となりました。

その他の事業においては、伸び悩み個人消費・長引くデフレ環境下において、目視検査用LEDライトテーブル『LitaVi』、スポーツサポート用品『Finoa』ブランドのカラーテーピング「サッカー日本代表チームバージョン」など、顧客の幅広いニーズに応える製品展開に努め、売上高は15億92百万円（前年同期比1.8%減）となったものの、営業損失は16百万円（前年同期は81百万円の損失）となり65百万円の改善となりました。

抜群の生産性と高品質作画を実現する 高速大判インクジェットプリンタ『VJ-1638J』

大判インクジェットプリンタの最新機種『VJ-1638J』（1,625mm幅）は、最大48 m/hの高速作画に加え、横筋と色ムラを軽減し色濃度を上げる独自の画質向上技術のFog/Wow Printも搭載、大／中／小のドット径が異なる3種類のバリエーションドットと併せ、4色インクでの色表現を最大限に引き出し、高品質作画を実現しました。

高生産性と高品質を高い次元で実現した『VJ-1638J』はサイン市場におけるさまざまなニーズに対応いたします。



高速大判インクジェットプリンタ『VJ-1638J』

教育用CADシステム



■3次元CAD教育の課題を解決する教育機関向けCADパッケージ

設計製図には、「①完成品を想像し正面／平面／側面などの図面として表現する能力」、「②図面から完成形状を想像する能力」が必要であり、ドラフターなどによる手描き製図や2次元CADに慣れ親しむことで、これらの能力を鍛えることができます。いきなり3次元CADで授業を行った場合、技術者として必要な2次元図面⇄3次元モデルの変換能力を鍛えることができません。

ドラフター感覚で作図する2次元CAD『M-Draf Spirit』と世界標準の3次元CAD『SolidWorks』を統合することにより、カリキュラムごとに2次元と3次元を使い分けて授業を進めることができます。



キネシオロジーテープ®



『Finoaキネシオロジーテープ超撥水』は、基布にポリエステルとポリウレタンを使用し撥水加工を施した撥水性に優れたテープです。

その撥水性は、冷水から温水までカバーします。また、通気性に優れているためムレ防止にも効果的です。

雨中のゲームやトレーニング、テーピングをした状態でのシャワーなどで効果を発揮します。



本社機能を移転

当社は、平成23年12月26日に、今後の業容拡大に対応できるスペースを確保するとともに、一層の業務効率の向上と意思決定の迅速化を図るために、関連する国内グループ各社も含めて本社機能を東京都世田谷区池尻に移転いたしました。

同時期に同ビルに移転したのは当社およびそれぞれ当社の子会社である武藤工業株式会社、株式会社ムトーエンジニアリング、株式会社ムトーエンタープライズ、ムトーアイテックス株式会社です。

移転を契機に、MUTOHグループはより一層の飛躍を目指してまいります。



住所 〒154-8560
東京都世田谷区池尻3丁目1番3号
TEL：03-6758-7100 FAX：03-6758-7106
交通機関 東急田園都市線 池尻大橋駅下車 西口よりすぐ



世界に先駆けて！ インクジェット方式による導光板グラデーションパターン印刷技術を確立

MUTOH独自の印刷技術により、導光板印刷の世界が変わります。

導光板とは、アクリル板の表面に特殊な加工を施して、端面から入れた光を拡散させ均一に面発光させる板のことで、方式にはスクリーン印刷、レーザー、V溝カット、成型などがありますが、MUTOHは独自のインクジェット印刷技術を開発しました。

MUTOH独自の導光板印刷技術は幅広い分野で導入が期待されています。

インクジェット方式による導光板印刷により、

■ オンデマンド印刷

金型や印刷版は不要 → 試作時間の大幅短縮とコスト削減が可能です。

■ 大型パネルへも容易に対応

大型インクジェットフラットベッド印刷機 → 100インチ級も対応可能です。

更に、MUTOH独自のグラデーションパターン印刷により、

■ 精細な印刷パターン

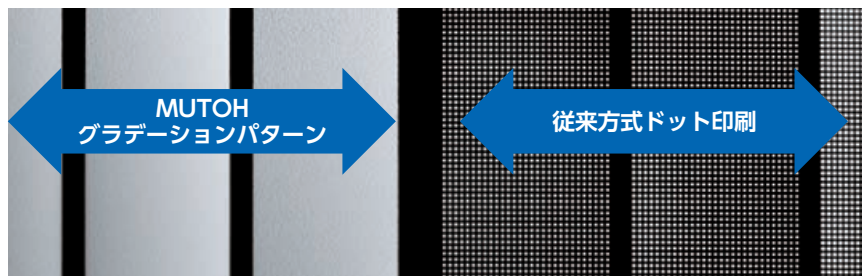
薄型（2mm以下）のアクリル板でも液晶やメディアを通してドットパターンが見えません。

■ 色温度の調整

多種類のインク同時搭載可 → 色温度を導光板である程度調整可能です。

■ 拡散板が不要

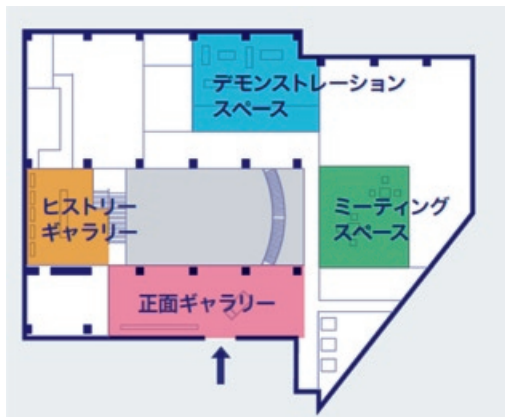
緻密なグラデーションパターンにより輝度分布をコントロール。
精細な面発光パターンにより拡散板を外す事もできます。



活用事例



MUTOHグループ総合ショールーム MUTOH Designing Gallery を開設 (1)



本社1階に、MUTOHグループ総合ショールームとして
MUTOHデザインングギャラリーを開設いたしました。

(当社HP <http://www.mutoh-hd.co.jp> でもご覧いただけます。)

MUTOHデザインングギャラリーは、MUTOHブランドを見て触れて感じてもらうスペースです。

常に新しい製品やソリューションを『デザイン（企画）』していく姿勢』を感じて、『デザイン＆設計する人に役立つ製品を紹介（提供）しつづける』という考え方と新しいビジネス（ビジネスモデル）や地球環境も『デザイン（立案）していく』考え方、“ものづくり”にこだわるMUTOHグループが表現されています。

最新機種やラッピングカーの展示の他、グループの歴史紹介、製品をデモンストレーションできるスペース、ミーティングスペースで構成されています。

◎正面ギャラリー



正面には、外を歩く人、往来する車からもはっきりと認識できるギャラリーを象徴する大型の“MUTOH SIGN WALL (MUTOHサインウォール)”と“ラッピングカー”を展示。お客様をお出迎えします。

■MUTOHサインウォール

美しく輝く姿が印象的なMUTOHサインウォール。印象的に光るLED照明には、独自開発した次世代LEDバーライト『クールライト』が大量に組み込まれています。



■ラッピングカー

入口正面から目に飛び込んでくるラッピングカー。主力製品である『バリュージェット』で出力したプリントをラッピングしています。

デザインは、これから飛躍していくイメージとワールドワイド感を意識したデザインを採用しました。

設計に必要な遊び心と、対応の柔軟さを表現しています。

MUTOHグループ総合ショールーム MUTOH Designing Gallery を開設 (2)

◎ヒストリーギャラリー

1952年の設立から現在まで、そしてこれから刻まれていくMUTOHの歴史や未来への期待を表した「MUTOH沿革パネル」を展示しています。

スペース全体は回廊をイメージ。ドラフター1号機（＝日本機械学会認定「機械遺産」）からドラフター、ペンプロッタ、CAD、インクジェットプロッタへと、「形あるもの図形あり」と言う言葉に形容される設計製図のMUTOHが歩んできた“ものづくり支援”の歴史と製品、そして、『デジカラー』（光学式計測器）、LED関連製品など盛り沢山にギャラリーに来ていただくお客様にご覧いただけます。



◎ミーティングスペース



ミーティングスペースは、ゆっくりと打合せができるように、ゆったりとしたスペースに落ち着いたイメージになっています。

壁面には、MUTOHのワールドワイドな展開を表現したタペストリーを9種のメディアで出力・展示し、大判インクジェットプリンタの幅広いメディアへの対応力をアピールしています。

◎デモンストレーションスペース

MUTOH製品を実際に見て触れて感じていただけるスペースです。

出力作業と出力サンプルを確認しながらご商談いただけます。

業界のパイオニアとして常に新しい息吹を吹き込んできた大判インクジェットプリンタの最新機種『V』（バリュージェット）シリーズ』等を一堂に展示しています。



石巻市民の「心の復興」の礎となることを願って！ 石巻専修大学『3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作』プロジェクト

3Dプリンタ『ZPrinter』のユーザーでもある石巻専修大学様では、復興共生プロジェクトの一環として、地域住民の「心の復興」の礎となるシンボル製作に取り組み、震災前の石巻市沿岸部の町並みを立体模型で再現しています。

高速3Dプリンタ
[ZPrinter450]



ふるさと、石巻の情景

～石巻市門脇町・南浜町周辺～



立体模型は大学図書館
に展示されています。



石巻専修大学概要：

学校法人専修大学が初の理工系学部を含む総合大学を目指し、1989年（平成元年）に宮城県石巻市に開学しました。先端的な学術研究、実践的な教育活動で知られ、また「地域に開かれた大学」として地域との連携事業も積極的に展開しています。

学生数は1,853人（2011年5月1日現在）

MUTOHは協賛企業としてプロジェクトを応援しています。

大容量&低価格のバックアップ電源『あんしん電源』

■非常時の業務継続には、UPSでは足りません

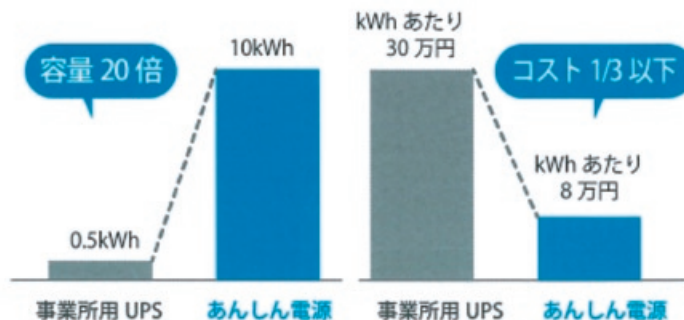
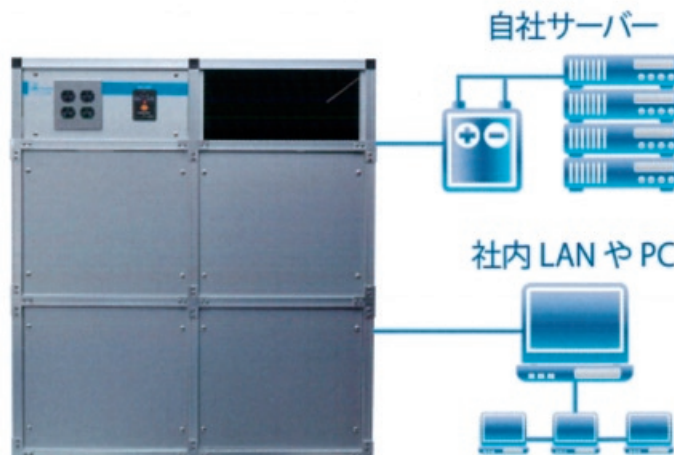
UPS（無停電電源装置）は、停電時にサーバーやPCが突然停止するのを防ぐ装置ですが、バッテリーの持続時間は限られています（数分から数十分）。従って、非常時にもITシステムを稼働させるには、別途、大きな電源が必要です。

◎MUTOHから新しいソリューション
『あんしん電源』
をご案内します

『あんしん電源』は、EV（電気自動車）技術を応用することにより、従来のUPSと比較しておよそ20倍の大容量が可能になりました。その一方、バックアップ専用電源として必要十分な機能を選定することにより、kWhあたりコストは3分の1以下に抑えられています。

これ1台で、サーバーも社内LANやPCの電源もカバーできるバックアップ電源です。非常時や停電時の業務継続に威力を発揮します。

容量20倍 コストは1/3以下



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期 平成24年3月31日現在	前 期 平成23年3月31日現在
資産の部			
流動資産		15,863	17,276
現金及び預金		6,144	7,601
受取手形及び売掛金		4,347	4,300
たな卸資産		4,575	4,679
その他		796	694
固定資産		11,165	11,186
有形固定資産		8,626	8,809
無形固定資産		160	600
投資その他の資産		2,378	1,775
投資有価証券		1,815	979
その他		562	796
資産合計		27,028	28,462

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期 平成24年3月31日現在	前 期 平成23年3月31日現在
負債の部			
流動負債		4,871	4,991
支払手形及び買掛金		2,960	2,900
短期借入金及び一年以内返済予定の 長期借入金		—	103
その他		1,910	1,986
固定負債		3,555	4,011
長期借入金		—	245
その他		3,555	3,766
負債合計		8,426	9,002
純資産の部			
株主資本		20,359	20,930
資本金		10,199	10,199
資本剰余金		4,181	4,182
利益剰余金		8,298	8,862
自己株式		△ 2,319	△ 2,312
その他の包括利益累計額		△ 2,408	△ 2,109
少数株主持分		650	637
純資産合計		18,601	19,459
負債・純資産合計		27,028	28,462

■ 連結株主資本等変動計算書

当期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括 利益累計額	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成23年4月1日残高	10,199	4,182	8,862	△ 2,312	20,930	△ 2,109	637	19,459
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 137		△ 137			△ 137
当期純損失			△ 425		△ 425			△ 425
自己株式の取得				△ 7	△ 7			△ 7
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）					—	△ 299	12	△ 286
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	△ 563	△ 7	△ 570	△ 299	12	△ 857
平成24年3月31日残高	10,199	4,181	8,298	△ 2,319	20,359	△ 2,408	650	18,601

■連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日	自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日
売上高		20,441	21,920
営業利益		653	1,202
経常利益		1,306	962
税金等調整前当期純利益		7	734
当期純損益		△ 425	800

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

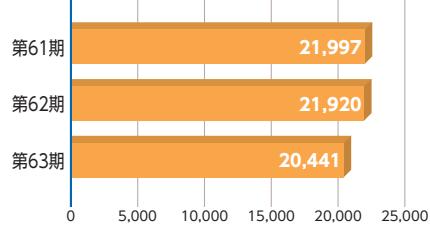
科 目	期 別	当 期	前 期
		自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日	自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△	484	1,094
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	276	△ 372
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	521	△ 94
現金及び現金同等物に係る換算差額	△	165	△ 441
現金及び現金同等物の増減額	△	1,448	185
現金及び現金同等物の期首残高		7,592	7,407
現金及び現金同等物の期末残高		6,144	7,592

■事業セグメントにおける連結会社

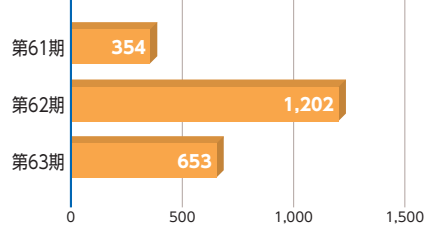
事業区分	会社名
情報画像関連機器事業	武藤工業(株)・ムトーベルギー社・ムトーノースヨーロッパ社・ムトードイツ社・ムトーアメリカ社・武藤工業香港有限公司・ムトーシンガポール社・ムトーオーストラリア社
情報サービス事業	ムトーアイテックス(株) (株)ムトーエンジニアリング
不動産賃貸事業	MUTOHホールディングス(株)・(株)ムトーエンジニアリング・ (株)ムトーエンタープライズ
その他の事業	(株)ムトーエンジニアリング (株)ムトーエンタープライズ (株)セコニック技研 (平成23年12月まで)

(注) 平成24年1月に、株式会社セコニック技研を株式会社セコニックに譲渡しております。

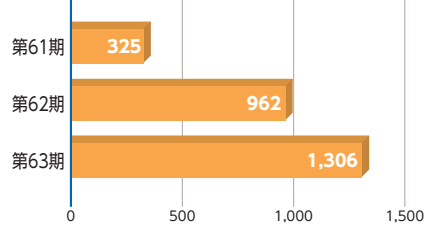
売上高の推移 (単位：百万円)



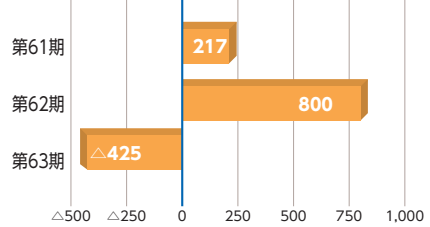
営業損益の推移 (単位：百万円)



経常損益の推移 (単位：百万円)



当期純損益の推移 (単位：百万円)



会社の概要 (平成24年6月28日現在)

商 号 MUTOHホールディングス株式会社
(英文社名 MUTOH HOLDINGS CO., LTD.)

設 立 1952年(昭和27年)3月5日
(創業:1942年(昭和17年)12月)

資 本 金 101億99百万円

本 社 事 務 所 東京都世田谷区池尻三丁目1番3号
TEL:03-6758-7100(代)

主 な 事 業 内 容 グループ会社の経営管理および資産管理

ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.mutoh-hd.co.jp>

MUTOHグループ会社



(注) 平成24年1月に、株式会社セコニック技研を株式会社セコニックに譲渡しております。

役員 (平成24年6月28日現在)

取締役会長	高山允伯	取締役	青木久佳	常勤監査役	立沢肇
代表取締役社長	早川信正	取締役	竹田晶信	監査役	中野浩樹
取締役	矢田裕治	取締役	高山芳之	監査役	國峯信成

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

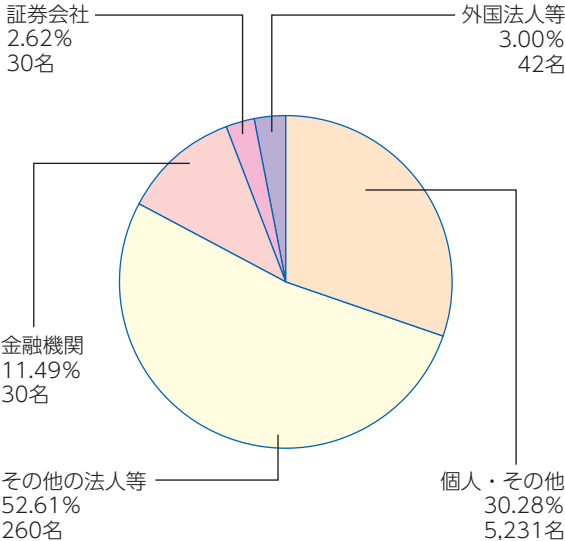
■ 発行可能株式総数	170,000,000株
■ 発行済株式総数	54,818,180株
■ 1単元の株式数	1,000株
■ 株主数	5,593名

大株主の状況

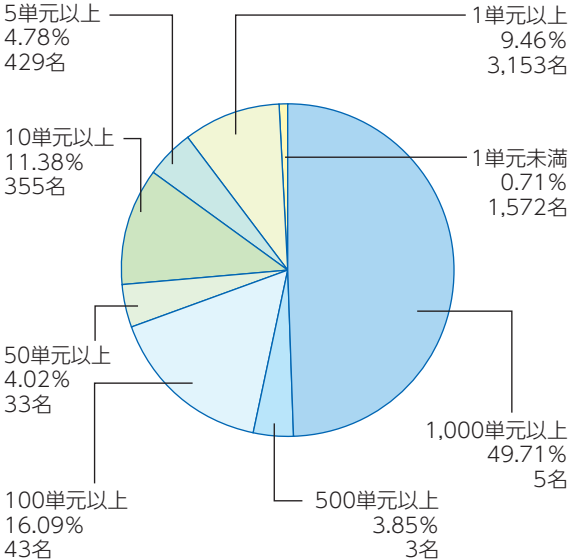
株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
TCSホールディングス株式会社	13,220,000	28.77
株式会社みずほ銀行	2,121,399	4.62
武藤栄次	1,580,586	3.44
中央三井信託銀行株式会社	1,457,000	3.17
ユニシステム株式会社	923,000	2.01
エヌ・ティ・ティ・システム開発株式会社	712,000	1.55
武藤郁子	638,603	1.39
ハイテクシステム株式会社	551,000	1.20
クレディ・スイス・セキュリティーズ (ヨーロッパ)リミテッド メインアカウント	469,000	1.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	433,000	0.94

(注) 1. 当社は自己株式8,872,127株を保有しておりますが、上記「大株主」からは除いております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 中央三井信託銀行株式会社は平成24年4月1日をもって、合併により商号を「三井住友信託銀行株式会社」に変更しております。

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 毎年3月31日
受領株主確定日
中間配当金 毎年9月30日
受領株主確定日
公告方法 電子公告により当社ホームページに掲載
http://www.mutoh-hd.co.jp

※やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合には、「日本経済新聞」に公告いたします。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

ご注意

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

2. 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

3. 「配当金計算書」について

配当金お支払いのご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7999

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。